

1945 年(昭和 20 年) 8 月 15 日、日本はポツダム宣言を受諾。ここに太平洋戦争は終結しました。それから 69 年、今年も島田市平和祈念式典が開かれます。今を生きる私たちにとって「平和」とは何なのでしょう。これからの未来を担う若者の目には「戦争」はどう映っているのでしょうか。市内に残る戦争の傷跡や遺構に目を向け、「島田市平和都市宣言」の策定に携わった若者が平和を願う声に耳を傾けてください。

平和のためにできることは、戦争や平和そして社会情勢について学び、考えること。

市民アンケートの回答(高校生)

平和とは、家族と一緒にいられること。
家族の幸せ。平穏な日々が送れること。

市民アンケートの回答(一般)

平和のためにできることは、差別をなくすこと。

市民アンケートの回答(小中学生)

平和とは、家族や地域でのコミュニケーションを図ること。コミュニティ活動をする事。

市民アンケートの回答(高校生)



島田市平和都市宣言制定委員
加藤あぐりさん(島田高校2年)

私が平和と感じるときは、家族から「おはよう」と声を掛けてもらうとき。

平和都市宣言制定委員 加藤あぐりさん



広報しまだ

Shimada



目次 — CONTENTS —

- 2 特集：女子高生と平和
- 10 市政あらかると
- 12 新市立島田市民病院建設基本構想を策定しました
- 14 まちの話だい
- 16 しまだ情報
- 22 新入園児を募集します
- 24 島田市総合防災訓練
- 25 第 57 回 島田髷まつり
- 26 図書館だより
- 27 友好のかけはし
- 28 スクスク子育て
- 29 スポーツ INFO
- 30 暮らしのシグナル
- 31 文化課通信
- 32 けんこうナビ(9月)
- 36 便利帳／彩りもう一品
- 38 掲示板／みんなのひろば／ソラマメ
- 40 しまだ人：平口清太郎さん

表紙 — COVER STORY —

平和への理想を笑顔で語り合う女子高生。3人の未来への希望は、折り鶴となって飛び立ちます。



特集 JKP 女子高生と平和

Joshi-Kosei & Peace

島田市の戦争の歴史と、私たちの未来の平和を考える



島田市平和都市宣言制定委員
すぎさわ ゆな
杉澤由菜さん(金谷高校3年)

私が平和と感じるときは、家族に「いってきます」と言えるとき。

平和都市宣言制定委員 杉澤由菜さん

平和と感じるときは、コミュニケーションが図られているとき。友人とのふれあいがあり、笑顔と笑いがあるとき。

市民アンケートの回答(高校生)

平和のためにできることは、歌を歌うこと。

市民アンケートの回答(小中学生)

平和のためにできることは、他人の立場や気持ちを考えること。話し合い、助け合うこと。

市民アンケートの回答(高校生)

平和と感じるときは、学校に通えるとき。食べるものに困らないとき。

市民アンケートの回答(小中学生)



島田市平和都市宣言制定委員
しばた なな
柴田奈菜さん(島田高校2年)

平和と感じるときは、コミュニケーションが図られているとき。友人とのふれあいがあり、笑顔と笑いがあるとき。

市民アンケートの回答(高校生)

平和のためにできることは、政治に関心をもち、選挙で投票すること。教育を受け、子育てをすること。

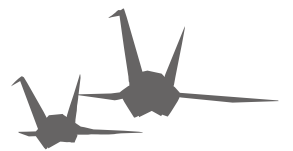
市民アンケートの回答(一般)

私が平和と感じるときは、「ありがとう」を伝えられる人がいるとき。

平和都市宣言制定委員 柴田奈菜さん



「島田空襲」について語り合う3人



明日を生きる若者が語る

自らの意思で「島田市平和都市宣言」の策定に加わった現役女子高生の3人。島田市に暮らす若者の代表として、彼女たちは何を思っているのかを聞いた。

平和

次世代への決意

市では、戦争の悲劇が再び繰り返されることのないよう「平和祈念式典」をはじめとする事業をおして、市内外に向けて平和の重要性を発信しています。しかし、緊張が高まる国際情勢や絶えない武力紛争など、私たちを取り巻く環境は、決して平穏とはいえない状況にあります。

安心して暮らせる安全な社会を実現するために、私たちには何ができ、何をすべきなのでしょう。市では、まずは平和を望む意思を広く示すことが重要と考え「島田市平和都市宣言」を制定しました。これは、明るい未来へのさらなる一歩として、世界に島田市民の平和への想いを発信していく決意でもあります。

明日の平和を考える上で、未来の大人、つまり若者の意見は欠かせません。今回、平和都市宣言の策定にあたり、現役の女子高生3人が、自らの意思で参加してくれました。島田市のこれらを担う若者たちは、平和をどう捉えているのでしょうか。



Qなぜ、平和都市宣言制定委員会の委員になりたいと思ったのですか？

A 杉澤由菜さん（以下、杉澤）

学校の生徒会でも、ボランティアを通じた地域貢献活動を行い、自身の成長を感じました。委員として幅広い世代の人たちと関わることで、さらに成長できるかもと思ったのが、応募のきっかけです。

A 柴田奈葉さん（以下、柴田）

中学時代から続けているボランティア活動を通して、自分の存在価値を感じることができました。自分にも他人にも頑張ることが、将来への自信につながると思い、応募しました。

A 加藤めぐりさん（以下、加藤）

以前から、ボランティアに参加したいと考えていたので、良い機会だと思いました。また、祖父から戦争の話を聞いていたので、話の意味を深く知るためにも、自分なりに平和を考えたいからです。



Peace Ambassador



高校生平和大使派遣委員会
長崎派遣代表
しん まみどり
新聞緑さん(島田高校1年)



県内各地で平和を訴える署名活動などを、自発的に手伝ってきた新聞さんは、8月7日から長崎県で行われる「被災69周年原水爆禁止世界大会長崎大会」に参加し、世界に平和を呼び掛けました。「高

校生平和大使派遣委員会」は1998年以来、核の惨禍を知る被爆地の声を世界に伝えるために、未来を担う若者を同大会および国連に派遣しています。新聞さんは「国や人種が違って、家族や恋人がいて、怒られたり褒められたり『私たちと何も変わらない同じ人間同士』ということを忘れないでほしい」と平和への願いを話してくれました。



Q 委員会に参加してみても、平和に対する考えが変わりましたか？

A 加藤

平和の価値観が、世代によって違うことに気付きました。少しの違いで、平和と感ずることも事実。簡単なことだけど、それができない世界になってしまふのが心配です。

A 杉澤

戦争を体験した先輩たちと話す中で、平和都市宣言を作れること自体が、平和なんだと感じました。だから、宣言文を作らなくてもいい、平和な世の中が理想ですね。

A 柴田



戦争の対極が平和ではないと感じました。戦争を知らない私たちにも、平和への希望があります。違う世代の皆さんと話すごとで、いろいろな形の平和を知りました。

Q 今後は平和都市宣言を、どう活用してほしいですか？

A 杉澤

まずは、一人でも多くの人に、宣言文の存在を知ってほしいです。温かい気持ちを周囲に広げられるように、自分が率先して行動を起こさなければと感じています。

A 加藤

私自身、成長する過程で少しずつ

平和を理解してきました。幅広い世代に向けて作った宣言文なので、定期的に読み返して、その世代なりの何かを感じてほしいです。

A 柴田

島田市の平和都市宣言なのだから、身近にある平和を再認識するきっかけになれば、うれしいですね。どんな世代にも受け入れやすい文章なので、どんな形であれ反応を期待しています。

Q あなたにとっての平和とは？

A 柴田

世界は一つと考え、人として人を尊重し、共存していける世界です。平和を押し付けるのではなく、各自が幸せと感じられる日常を作ることが、大切なんだと思います。

A 杉澤

何気ない「いつてきます」「おかえり」を交わせる喜びを感じることができる社会です。平和を意識しなくても、誰もが笑顔で日常を過ごせばいいですね。

A 加藤

一人ひとりが豊かな心を持って相手と接することで、周りの人々が笑顔になるのだと思います。それを自然に実現できる社会でなければ、平和ではないのかもしれない。





扇町公園の「平和之礎」



戦争が残した未だ癒えない

後に「島田空襲」と呼ばれる惨事は、扇町に落とされた一発の爆弾によって引き起こされた。その空襲は、多くの命を奪い、残された人々の運命を一瞬で変えた。

傷跡

島田空襲の真実

昭和20年7月26日朝、島田のまちに警戒警報のサイレンが鳴り響いた。より危険が差し迫った空襲警報ではないが、北東の方角から1機の米軍機が近づいていた。午前8時34分、B29爆撃機が島田の上空に差し掛かると、空から黄色い大きな何かが落ちてきた。次の瞬間、ものすごい轟音と共に、爆風が扇町を一掃した。5トン爆弾だった。

爆心地は、現在の扇町公園から東南に約30m離れた地点。地面は、直径十数mにわたって皿状にえぐられ、その周辺には、爆風で倒壊した建物が瓦礫となり、山のように重なっていた。多くの被爆者が家屋に挟まれたり、木の枝に引っかかるほどの爆風で飛ばされたりして亡くなった。また、一瞬で肉片となり、四方八方へ飛び散った者も少なくはなかった。辛うじて生き残った被爆者は、破れた衣服をまとい、すぐそばにいたはずの家族を探して、半狂乱となり叫び続けた。

1発の爆弾は、死者47人、負傷者140余人、全半壊家屋120戸以上

の被害をもたらした。

戦後に発見された米空軍の原爆投下部隊「第509混成群団」に関する資料の中に「原爆部隊は、ファット・マンと同じ形で黄色に彩色したパンプキン（カボチャ）爆弾を積んで、練習のため出撃した」と書き記されている。この一文をはじめ、同部隊の報告書などの中に、島田空襲にまつわる記述を見ることができる。

資料によると、新潟への原爆投下を検討していた米軍は、富山の軍需工場への模擬原爆投下を決定。7月26日、出撃を命令された6機のB29が、南の島から離陸した。

第一投下目標の富山には4発の模擬原爆が投下されたが、6機のうちの1機は、視界不良のため爆撃を断念した。しかし、第二投下目標は「京都・新潟・広島・小倉を除く任意の市街地中心」としか命令されておらず、長野方面から南へ向かったこの機は、島田上空で模擬原爆を投下したのだった。



「パンプキン」爆弾の想像図



牛尾実験所跡の基礎部分(一部)

憎しみ合いの虚しさを今に伝える



忘れ去られた「牛尾実験所」では、大戦末期に最新兵器が研究されていた。学びへの情熱をも利用する戦争は、科学者の心にも影を落とした。

遺構

葬られたZ装置

市教育委員会は昨年12月、国土交通省の大井川治水工事の開削対象地にある「牛尾山」で、発掘調査を始めた。そこには、太平洋戦争時の旧日本軍「第二海軍技術廠牛尾実験所」跡が眠っているからだ。

旧日本軍は、劣勢の戦況を挽回しようと、秘密裏に「強力電波兵器ⅡZ装置」の研究を進めていた。研究していたのは、強力な電磁波を発生させる「マグネトロン」と呼ばれる磁電管。B29などの敵機に照射できれば、電気系統に不具合を起し、墜落させることができると考えられた。

当初の研究は、向島町（現・特種東海製紙(株)敷地内）にあった島田実験所で行われ、後にノーベル賞を受賞する朝永振一郎博士や湯川秀樹博士ら第一線の科学者が出入りし、Z装置の開発を急いでいた。その後、空襲の激化とともに牛尾山の山中に実験所を移設したが、建設半ばで終戦を迎えている。

2月に公開された遺構は、12施設のうち、パラボラ反射鏡の架台一対と、

電磁波を発生させる発振室と電源室のコンクリート基礎部分。架台には、直径10mのパラボラ反射鏡が据え付けられる予定だった。終戦後、建屋は解体されたが、発掘調査により銅線や陶製碇子、鉄板やガラスの破片など約300点が出土した。

大井川は、約420年前の「天正の瀬替え」により、牛尾山の東に流れを変えた。その後、河道断面が不足した川の流れを円滑にし洪水を防ぐため、現在、牛尾山を削る「平成の大改修」が進められており、来年にも実験所跡が開削工事の対象になる。

今後、牛尾実験所が存在した事実は、詳細な発掘調査報告書として記録が保存され、後世に伝えられる。その一方で、戦況を挽回するために科学者が動員された虚しい史実も、忘れてはいけない。



発掘された陶製碇子(絶縁体)や金属片

島田市平和都市宣言

「おはよう」

「おはようございます 今日はいいいお天気ですね」

「いってきます」

「いってらっしゃい 気をつけてね」

何げないあいさつを 交わしあえるよろこび
それは 平和という宝もの

でも それは争いや災害など
多くの苦しみや悲しみを乗り越えた
強さや優しさによって
築きあげ 守られてきたもの

現在を生きる私たちに 託されたことは
すべての人に 永遠の平和が訪れるよう



昨日の積み重ねから生まれる今日の平和を、明日の市民に受け継ぐため、島田市は平和都市であり続けることを宣言する。

平和都市への決意

わが国では、戦後生まれの人口が8割を超え、悲惨な戦争体験を語り継ぐことが次第に難しくなっています。また、家族構成や生活様式そして社会情勢の変化に伴い、平和に対する個々の価値観や考え方も多様化しているといえます。

市においても、平和祈念事業などへの参加者が減少傾向にあるなど、平和に対する市民の意識の希薄化が見取れます。そうした状況の中で、市では、平和の尊さを再認識し、共に平和な社会を目指すため「島田市平和都市宣言」を制定しました

目指したのは、全ての市民が安らかで穏やかな生活を営み、心の底から幸福を実感できる、真の平和都市の実現に向けた決意。そこで、市民アンケートやパブリックコメントを実施し、より多くの市民の皆さんの気持ちを反映した宣言となるよう、老若男女に分かりやすい言葉で表現しています。また、反戦や反核だけに終始することなく、日常生活の平和を大切に感じてもらえ

未来

るよう、身近な文章表現を用いました。

【平和都市宣言制定までの経緯】

- ◎平成25年9月26日／第1回 制定準備委員会開催
- ◎10～11月／平和への想いについて市民アンケート実施
- ◎12月24日／第2回 制定準備委員会開催
- ◎平成26年1月21日／第1回 平和都市宣言制定委員会開催
- ◎2月24日／第2回 平和都市宣言制定委員会開催
- ◎3月25日／第3回 平和都市宣言制定委員会開催
- ◎4月7日～5月7日／パブリック・コメントにより市民の意見募集
- ◎5月15日／第4回 平和都市宣言制定委員会開催
- ◎5月28日／平和都市宣言案を市長へ提出
- ◎6月9日／平和都市宣言案を市議会へ提出↓市議会にて審議
- ◎7月3日／市議会にて平和都市宣言の議決
- ◎8月15日／島田市平和祈念式典にて「島田市平和都市宣言」公表



お互いを認め合い 助け合い
分かち合える社会を実現し
次の世代へつないでいくこと

私たちは呼びかけます

「今日より明日をいい日にしよう」

「生命の尊さを伝えよう」

「あなたがいてくれてありがとう」

そして すべてのものに「ありがとう」

私たちは叫びます

「人を傷つけ不幸にするものはいらない」

「歴史が培った大切な財産を 消し去ることは許さない」

私たちは宣言します

大井川の清流に育まれた 緑ゆたかな島田市が

平和を願う 世界中の人たちとともに

笑顔の絶えない 明るい未来をめざして

歩みつつける 平和都市であることを



牛尾実験所跡から望む大井川と水路橋

島田市の平和事業

【島田空襲被爆者慰霊のつどい】

▼昭和20年7月26日の「島田空襲」をはじめ、戦火により市内各所で多くの尊い命が失われました。この歴史的事実をあらためて認識すると共に、永遠の平和を願いつつ、戦没者の霊を慰めることを目的に、平成14年からは市主催で実施しています。

とき・ところ／毎年7月26日・扇町公園

【島田市平和祈念式典】

▼第二次世界大戦で亡くなられた方々を追悼するため、戦争にまつわる朗読劇や、懐かしい小学校唱歌の合唱などを交えて、「終戦の日」に戦没者の霊を慰め、平和を祈念しています。平成7年からは、島田市平和祈念式典実行委員会を組織し、運営しています。

とき／8月15日(金)午前10時15分から
ところ／プラザおおるりホール

【島田市平和祈念事業展示事業】

▼島田市平和祈念式典の前後4日間程度、戦争と平和に関するパネルや戦時資料、小学生の作文などの展示を行っています。今年度は、牛尾山掘削事業に伴い調査された「牛尾実験所」跡の概要や遺構で発掘された遺物も展示します。

とき／8月14日(木)～17日(日)

午前10時～午後4時

ところ／プラザおおるり展示ホール

受け継ぐべき平和

戦争体験者の悲痛な想いを、未体験者が引き継ぐだけでは、明るい未来には繋がりません。不幸を増幅させることから、幸福は生まれないのです。

しかし、悲惨な過去を知ることとは、平和であるべき未来の「道しるべ」となるはず。戦争への想像力を膨らませ、平和を切望する心が、今を生きる人々の争いを阻む警鐘になる。だからこそ、島田空襲を体験した人々の記憶を、語り継ぐ必要があるのです。

歴史とは、昨日の出来事の羅列ではありません。それは、過去・現在・未来という時の流れの中に存在しているのです。島田の繁栄は、69年前に失われた尊い命の上に成り立っている歴史。そして、戦後の復興を顧みれば、豊かさは平和によって成立していると分かるはずです。



昨年の島田市平和祈念式典（朗読劇）